

離床センサーのパイオニア・テクノスジャパンがお届けします



テクノス通信



4月
vol.95
2017

今月のテーマ 「どの対象者にどんなセンサーを選べばいいの？ 2017」

対象者によって ADL やクセは様々です。今回はテクノスジャパンの離床センサーの種類とその基本的な対象者の特徴を一覧にした最新バージョンをご紹介します。

■センサーの種類と対象者

ベッドまわりで					
	コールマット	ベッドコール	サイドコール	介助バーコール	ピローコール
センサーの種類	ベッドから立ち上がった時	ベッドから起き上がった時	ベッドの端に寄った時	介助バーを握った時	頭を上げた時
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 一人でベッドから離れると転倒する 徘徊の恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> ベッドからの離床が転落に結びつく危険が高い 動きが素早い 最も早めの検知が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 体動が激しく、離床センサーでの検知が難しい 床敷きセンサーより早い検知が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行に介助が必要な人 	<ul style="list-style-type: none"> 手術後に安静が必要
	超音波・赤外線コール	タッチコール	柵コール	スマット	
センサーの種類	動きを超音波と赤外線検知	ベッド柵を握った時	ベッド柵を引き抜く	ベッドから立ち上がった時、対象者のみ報知	
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 床敷きタイプのセンサーを避けてしまう 体圧分散マットレスを使用している（ベッドの上に敷くタイプのセンサーが使えない） 	<ul style="list-style-type: none"> 柵を乗り越えて転落する恐れがある 柵を抜いてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 柵を抜いてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 一人でベッドから離れると転倒する 徘徊の恐れがある 	

出入り口で			車いすで	トイレで	
	徘徊ナビ	NEW 徘徊ナビ・名札	座コール	トイレコール	
センサーの種類	出入口等に近づいた時	出入口等に近づいた時	車イスやイスから立ち上がろうとした時	便座から腰を浮かせた時	
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 離棟、離院の恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> 離棟、離院の恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> 離棟、離院の恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> 認知障害や自立過信で、車イスやイスから立ち上がって歩こうとする 	<ul style="list-style-type: none"> トイレから自立が困難 トイレ後にナースコールを押しさない

次号から3号にわたりセンサーを変更して上手く運用できた例、またそのセンサーの応用例などをご紹介します。
運用中のセンサーであり効果が無い、またはうまく使えていないなどお悩みの方は必見です！
また、使い方についてもっと知りたいなどご要望がありましたら、お気軽にメールでご相談ください。
(メールアドレス: merumaga@technosjapan.jp)

例えば…

コールマット

↓

超音波・赤外線コール に変更した例

変更前 コールマットをベッドの下に設置していましたが、点滴スタンドやテーブルなどさんの物があるので、スペースに限りがありました。

後 超音波・赤外線センサーはベッドフレームに磁石でかんたんにとりつけ、足もとがすっきりします。

